《事業所名：村山荘》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域の中の不可欠な資源としてさまざまなネットワークに参画し、地域交流を図り、地域福祉の推進に積極的に取り組んでいる
	内容	施設は、ふじみ町福祉施設連絡会や東村山市精神保健福祉ケア検討会、東村山市社会福祉法人連絡会、救護部会地域勉強会等、地域のネットワークに積極的に参画して、具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを行っている。また、「むらやまえん生活相談所」を設置し、生活相談に応じている他、地域の事業に参加しており、「お昼ご飯お届け事業」では地域の子どもへ低額で食事を提供し、職員の家での食材を集め、「フード・バンク」にも協力している。地域の中の不可欠な資源として様々なネットワークに参画し、地域福祉の推進に貢献している。
2	タイトル	職員間で、利用者情報をしっかり共有することで、さまざまな事情のある利用者に対して寄り添う支援と福祉の心があるサービスを行っている
	内容	定期的に開催するサービス会議で、ケース記録の書き方や行事開催の注意点、日中活動支援等、施設が力を入れて取り組んでいることへの情報共有がしっかりできている。また、業務支援システムの活用と情報ファイルの共有により、利用者情報について細かいことまで職員間で確認するしくみが整っている。こうした情報共有力を高めることが、成育環境などさまざまな事情のある利用者に寄り添う支援を可能としている。特に、利用者について職員がより知ることで、個々の適性に合った日中活動支援を行うことができており、利用者の満足度を高めている。
3	タイトル	利用者の希望や嗜好を丁寧に把握し、多彩な給食メニューの提供にいかすことにより、幅広い年齢層から高い満足度が得られている
	内容	美味しく栄養バランスのとれた食事の提供は重要なサービスの一つである。若年層から高齢層まで幅広い年齢層全体の満足を得るのは困難な中、年1回の嗜好調査、年2回の残滓調査、月1～2回の利用者との給食ミーティング等により利用者の希望や嗜好をきめ細かく把握している。希望や嗜好は献立、食材、味付け、調理方法等に反映し、パン、麺類を含めた日々の食事、行事食、選択食等多彩なメニューを提供することで、利用者の満足度を高めるよう努めている。利用者調査では74%が「食事がおいしいと思う」と答えており、高い満足度が得られている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日中活動の充実に向けて取り組んできているが、さらに、利用者本位で個別性に対応した活動プログラムの創出・実施が望まれる
	内容	施設では、「多彩なプログラムの検討を含めた日中活動の見直し」を重点運営方針に掲げ取り組んでいる。作業への参加が困難な利用者が増えており、利用者調査では「楽しみにしている行事・活動はあるか」の問いに「はい」と答えているのは約50%に留まっている。参加する活動メニューのない利用者への活動促進が課題となっており、新たに各フロアごとでの塗り絵やゲームなどの活動の充実に努めてきた。今後は、一人ひとりの状態や意向を踏まえ、利用者本位で個別性に対応した活動プログラムを計画的・継続的に実施するよう、見直しに取り組まれたい。
2	タイトル	職員一人ひとりが意見を言いやすい環境を創出し、意見を持ち寄り、検討し、事業運営にいかしていくことに期待したい
	内容	業務改善として、サービス会議で意見交換を行い、見直し等につなげている。一方、今回の職員自己評価では、意見が言いにくい、変わろうとしない意見と変わろうとする意見が混じり合わない等の意見が挙がっている。利用者支援には職員間の協力が必要であり、また、行政は新しい方針を示しており、この局面を乗り越えるためにも職員間で一致団結することが不可欠となっている。一人ひとりの意見を職員間で共有することは、大きな力となるため、今後は意見を言いやすい環境を創出し、意見を持ち寄り、検討し、事業運営にいかしていくことに期待したい。
3	タイトル	有事に備えて、平常時に行うべき活動や、緊急時の対応を詳細に定め、事業継続計画(BCP)を見直し、完成することが望まれる
	内容	毎年リスクに対する対策や、自然災害を想定したBCPや感染症対応について見直しを図っており、現在は、防火管理委員会において、災害用BCPを見直している。また、毎月の避難訓練や消防・防災各種訓練を行うことで、職員や利用者など関係者に周知し、BCPへの理解や防災意識の向上に取り組んでいる。なお、有事に事業の早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や、緊急時における初動対応、安否確認方法、被害状況の把握と共有等、さらに対応すべきことを詳細に定め、早期に見直し中のBCPを完成させることが望まれる。

《事業所名：さつき荘》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の希望を取り入れながら、多様な経験ができるようさまざまなイベントを実施するほか、活動の場を提供し、参加を促している
	内容	利用者個々の可能性を追求し、より豊かな生活や自立を援助することを施設の方針とし、多様な体験や活動ができる機会の提供に努めている。コロナ禍が続き制約がある中で、忘年会、初詣、お楽しみ食事会等のイベントを、感染対策に留意し、実施方法を工夫しながら開催した。多くの利用者が楽しみにしている旅行も日帰りの形で再開できた。また、東京救護部会が主催するレクリエーション大会や俳句短歌の会への参加を促した。さらに、地元市が推進している「街なか護美プロジェクト」などの清掃活動に参加することで活動の幅を広げている。
2	タイトル	特別に支援が必要な利用者でも柔軟に受け入れ、利用者のストレングスをいかせる支援体制を構築している
	内容	入所希望者は自らの希望だけでなく、様々な生活上の理由から施設生活へ繋がる場合がある。そのため、施設では医療機関や福祉事務所などの関係機関との連携を密に図り、事例に向き合っている。特別に支援が必要な利用者でも安心して施設へ移行できるよう、体験利用や担当職員の配置による不安軽減に努めている。また、施設での集団生活上のルールについて、「入所のご案内」で丁寧に説明し、トラブルを未然に防いでいる。さらに、利用者のストレングスをいかし、自尊心の回復に向かえるよう、できることは継続してもらう支援体制を構築している。
3	タイトル	人的資源、物的資源及び専門知識など、施設機能を有効に活用し地域貢献しながら、地域ネットワークと協働しつつ利用者支援に努めている
	内容	さつき荘の人的資源、物的資源及び専門知識の地域還元など、施設機能を有効に活用し地域貢献に取り組んでいる。人的資源や専門知識の活用としては、「暮らしの相談ステーション」、「むらやまえん生活相談所」など他機関と連携し地域住民の福祉に関する相談窓口となり、物的資源の活用では建物・設備・空間さらに苑内喫茶を提供している。地元の学生と職員の懇談会や、高校生ボランティアとのコラボレーションで利用者がゴミ拾いをしたり、地域の福祉ニーズに応えつつ施設外活動も行っている。地域ネットワークと協働しつつ利用者支援に努めている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	循環型施設の役割として、地域生活移行支援のみならず、関係機関との連携構築を期待したい
	内容	昨年度は3名の在宅復帰を実現させ、利用者の自立支援に努めている。一方で、都内で10箇所と少ない救護施設として、入所を待っている希望者が多い現状が見られる中、施設では、65歳以上の利用者が約半数をしめている。このような状況から、施設では地域移行を重点サービス方針として事業計画に盛り込んで、生活訓練を通して希望に基づく在宅復帰を支援している。しかし、必ずしも自立するだけでなく、利用者が安心して住み続ける場を提供するためには、循環型施設の役割を強化することが必要であり、様々な関係機関との連携構築に期待したい。
2	タイトル	停電を加味したBCP計画の策定も含めて、現在見直しが進んでいる事業継続計画のさらなる検討が・改定が望まれる
	内容	サービス会議にて大規模災害時の事業継続計画の見直しを行っているが、非常用物資の保管方法の工夫を含め、大規模災害や重大事故の発生時に実用性・実行可能性のある計画の見直し策定が必要となっている。また、近隣8施設と隣接地域の自治会との相互応援協定を結んでおり、応援員が実際の災害発生時などに迅速・効果的に動けるような計画策定と訓練の実施が期待される。さらに、エネルギー需給逼迫問題から、「停電」を加味したBCP計画の策定も必要となっており、現在見直しが進んでいる事業継続計画のさらなる検討・改定が望まれる。
3	タイトル	居宅生活訓練事業について、補助金事業化を目指し、訓練参加者の掘り起こしと訓練参加のさらなる促進に努められたい
	内容	施設では重点運営方針としての体系的な取り組みを強化し、利用者の自立支援を推進する」ことを掲げている。訓練は、専任担当職員を配置し、「生活訓練マニュアル」に沿って、企画書・計画書を作成しこれに基づき計画的に実施している。また、施設内の訓練室や借上げアパートを利用しての居宅生活訓練と、援助員等と連携したきめ細かい見守り、相談対応により、生活の場への移行を支援している。なお、独自の形式で柔軟に実施してきたが、補助金事業化を目指しており、そのための訓練参加者の掘り起こしと訓練参加促進に努められたい。

令和4年度

ハトホーム

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	待機者リストの活用や「相談員、ケアマネ会議」の開催、定期的な事前連絡等、きめ細かい対応を行っていることで高稼働率を維持している
	内容	相談員は申込書の情報を基に待機リストを作成し、この情報を基に「相談員、ケアマネ会議」で利用者個々の状況の他に、家族や生活の状況等も確認している。リストに載っている待機者には定期的に連絡を入れ、状態の変化等の確認を行っている。その後入所検討委員会を開催し、施設入所の必要性が高いと判断した対象者に見学を勧め、本人の意向を確認した上で入所につなげる等、きめ細かな対応を行っている。また、ショートステイ利用者で在宅生活継続が厳しい場合にも入所案内等を行っており、その結果、高稼働率を維持し事業経営にも寄与している。
2	タイトル	利用者においしいと喜んでもらえるようバラエティーに富んだ献立を作成し、季節感も味わえるよう工夫しながら食事の提供を行っている
	内容	管理栄養士は嗜好調査や残菜調査の結果を踏まえながら、クリスマス、おせち料理、敬老祝い膳等の季節の行事食、外注して選べるお好み食、3種類から選べる選択食、おやつ（固形または半固形）の提供、赤飯や手作りデザート等で祝う誕生会食等を提供している。できる限り「口から食べること」を目指し、安全でおいしいと喜んでもらえるようバラエティーに富んだ献立を作成し、また、行事食では季節感も味わえるよう手間や費用をかけて食事の提供を行っている。さらに、盛り付けや提供方法等も工夫しながら、雰囲気が盛り上るような試みも実施している。
3	タイトル	災害と感染症のBCPを基に実際の災害やクラスターを想定した訓練の実施や、職員へBCPの大切さを会議や委員会で周知している
	内容	法人として数年前に作成した災害時と感染症のBCPを施設も採用していたが、新型コロナウイルス感染症のクラスターの際に、十分に活用しきれなかったとの反省から、施設の現状に即した内容へと更新の必要性を認識し、実体験を教訓にして、陰圧装置の購入と組み立て訓練を行う等、実際の現場で活かせるように見直しを行っている。また、災害用のBCPも同様に、現在、施設の設備や環境を確認し、実状に合わせた訓練を計画しており、職員へも利用者と職員の命を守るための大切な取り組みである旨を、各種会議や委員会で周知の徹底に努めている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設内における利用者の権利擁護に関わる検証等の際に、外部の目を取り入れることで、さらに透明性を図っていくことが望まれる
	内容	施設では苦情、虐待防止、身体拘束適正化等について、規程やしくみに則った対応に努めており、身体拘束については、委員会で検討した結果、3要件の確認と家族の同意、記録の保存等、プロセスに沿って対応している。また、利用者への不適切な発言や対応に対して、面談や指導を行っていることが記録等からも確認できる。しかしながら、現状、検証や検討においては、職員のみで行われているため、外部の目を入れて、客観的な意見を取り入れるとともに、透明性を図る必要を検討されたい。また、他施設での実践を学ぶ等の機会の導入も一考されたい。
2	タイトル	支援や業務の検討の際には、このマニュアルに立ち返り、現状との乖離がないか等、常に点検するしくみを設けられたい
	内容	支援・業務上のポイントを絞り、プロセスや具体的な実施方法等を視覚的に把握しやすくした「総合マニュアル」を作成し、職員間で共有可能にしているが、「活用」という点では、課題が残る。今後は、運営会議や各委員会の中で行う、支援や業務の検討の際には、このマニュアルに立ち返り、現状との乖離がないか等、常に点検するしくみを設けられたい。また、支援上の目的等の部分に、「利用者の尊厳」や「権利擁護の観点」を盛り込むことで、職員の言動・行動には、その人への敬意や尊厳の姿勢が現れることへの、職員間の認識の共有につなげられたい。
3	タイトル	職員の将来目標と組織が求める人材像を共有して個別育成計画を作成し、それに基づいた育成のしくみと体制の整備に期待したい
	内容	施設では、年1回、施設長と職員の面談の機会を設けており、職員が事前に記入したアンケートを基に、1年間の振り返りや将来の目標等、個々によっては多岐にわたり確認している。しかし、現状は、職員全員と将来の目標を共有できていないこと、個別育成計画の作成までに至っていないことへの課題認識を持っている。そのため、今後、新に導入される人事評価との連動も含めて、アンケート内容や面談項目を見直す等、職員の将来目標と組織が求める人材像を共有して個別育成計画を作成し、それに基づいた育成のしくみと体制の整備に期待したい。

《事業所名：第2ハトホーム》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「一人ひとりのQOL(生活の質)に視点を当てたケアの質の向上」を目指してケアプランに反映し、実践につなげている
	内容	重点サービス計画に、「一人ひとりのQOL(生活の質)に視点を当てたケアの質の向上」を掲げ、利用者がどのような生活を望んでいるか、真意の汲み取りに重きを置いている。利用者本人や家族からの聞き取りはもとより、関係機関、関係者等から情報を収集し、利用者の人となり、生活歴等の把握に努めている。そこから浮かび上がったニーズを踏まえ、例えば、自分で歩いて外出や買い物をしたいとの要望があれば目標に掲げ、そのために、歩行訓練に力を入れて、出かける機会の維持・増加を目指す等、その人らしい潤いのある生活の実現を目指している。
2	タイトル	コロナ禍に於いても感染予防を徹底しながらボランティア、実習生を受け入れ、地域のニーズに沿った施設の設備や人員を提供している
	内容	多くの施設がコロナ禍に於いて外部交流の休止を決めている中、施設では感染に十分注意を払いながら学生も含めたボランティア82名と実習生8名の受け入れを継続している。また、医師との連携を強化して、月火水金の4日間、医務室を地域の診療所として開放し、コロナワクチンの予防接種や一般診療を行い地域医療にも協力している。さらに、地域の会議で挙がった「人とのつながりが持てる場が欲しい」という要望に対して、地域交流スペースを開放し、親子の居場所、人形芝居、町会自主防災定例会等に貸し出す等、地域貢献活動にも尽力している。
3	タイトル	コロナ禍で外出や行事が中止となり、活動ボランティアの受け入れも難しい中、利用者が楽しめるようイベントを企画、実施している
	内容	コロナ禍で外出や利用者、家族、地域住民が交流できる行事の中止を余儀なくされる他、活動ボランティアの受け入れも難しい中、職員が中心となってイベントを企画し、利用者の状態に合わせた提供方法で楽しく参加できるよう工夫している。1日1回の体操は継続するとともに、動画共有サービスを活用して音楽、映画、映像を観ながら身体を動かす等、毎日レクレーションを取り入れ生活の幅を広げている。さらに、季節が感じられる節句、七夕、花火大会や第2フェスティバル、ホーム喫茶等を実施する等、職員一丸となって利用者の楽しみを生み出している。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	全体の研修は充実しているが個別育成計画の策定が課題であり、管理職と職員が将来像を共有できるしくみの構築と策定の実現に期待したい
	内容	相談員研修、介護職員研修、認知症研修等の外部研修はオンラインで参加している。また、法人の強みを活かした特養交換研修等の他、虐待防止、看取り、褥瘡予防、身体拘束等、施設内研修も多岐にわたって計画・実施する等、充実を図っている。しかし、職員面談を通して策定されるはずの「個人別育成計画」は未着手となっている。面談は行っているが職員と管理職が具体的な将来像を共有できていないことが要因であることを、施設長も課題として捉えているため、次年度以降、人事評価面談等と連動させながら、職員の将来を見据えた計画策定に期待したい。
2	タイトル	介護サ-ビスの考え方とマナーの大切さを改めて確認し合い、ともに優しくなれる関係を築くための学びを深め、実践につなげられたい
	内容	新人職員・非常勤及び派遣の非正規職員用の各研修資料を作成し、基本理念・介護サ-ビスの考え方とマナーの大切さ、施設のケアマネジメント、リスクマネジメント、虐待防止等、職員として必要な知識やしくみ等を伝えている。一方で、利用者調査及び職員自己評価結果からは、職員の言葉遣いや態度等、サービスマナーについて改善の必要を要する状況がうかがえる。今後は、介護サ-ビスの考え方とマナーの大切さを改めて確認し合うとともに、ロールプレイング等も取り入れて、ともに優しくなれる関係を築くための学びを深め、実践につなげられたい。
3	タイトル	法人のホームページ上において検索しにくい現状にあるため、施設独自のページでタイムリーな更新ができる体制整備に期待したい
	内容	令和元年9月にハトホームが2つに分かれ、「第2ハトホーム」として清瀬市の東京都建替促進施設にて運営を開始しており、令和3年2月の新施設竣工、同年5月東村山市での運営再開を踏まえて、令和2年度から当該施設の創刊号として「白鳩通信」を単独発行している。施設設備をはじめ、介護の方針等、さまざまな独自性を発信している。一方で、現在、法人のホームページ上では、隣接のハトホームのページ内で広報誌や行事等の新着情報を発信できているが、検索しにくい現状にあるため、独自のページでタイムリーな更新ができる体制整備に期待したい。

《事業所名：ほんちょうケアセンター》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	アクティビティサービスを充実させて個別のニーズに合わせた利用者主体の活動を提供し、生活の活性化を図っている
	内容	事業所のアクティビティサービスとして、ストレッチ、健康椅子体操、棒やお手玉、タオル等、身近な物を活用した多様なリハビリ体操や食事前の口腔体操、認知機能低下予防プログラムのシナプソロジー、卓球、創作活動、音楽、麻雀、囲碁、園芸等の多くのクラブ活動がある。その中から個別ニーズに合わせて選択し、本人が自ら準備ができるよう物の配置を考慮する等、主体的な活動となるよう工夫している。また、シナプソロジーインストラクターを5名養成して、認知機能低下予防プログラムの充実を図る等、利用者の日々の生活の活性化を図っている。
2	タイトル	家庭や地域において継続した生活ができるよう利用者の状態に合わせた生活リハビリを積極的に取り入れている
	内容	家庭や地域において継続した生活ができるよう、利用者の状態に合わせた生活リハビリを積極的に取り入れている。自立支援や重度化予防への取り組みとしても生活リハビリに重点を置き、これまでの経験や、好きなこと得意なことに合わせて役割を担う場面を創出している。配膳、下膳、洗濯物干し、たたみ、花を活ける、連絡帳に感想を記入する、クラブ活動の準備をする等、主体的に行動する機会を多く持つことで自立生活が継続できるよう支援を行っている。また、生活リハビリと合わせて個別の機能訓練も実施することで、利用者の意欲向上につなげている。
3	タイトル	
	内容	

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の理解を深めるためのアセスメントシートの更新のしくみの再構築と実践が望まれる
	内容	科学的介護情報システムを導入し、サービスの質の向上及び加算の算定に積極的に取り組むための体制を整備している。アセスメントシートには生活歴、趣味・特技、現症・既往歴の他、ADLやIADL等を集約して、利用者の理解を深めており、通所介護計画書の見直しの際に更新するしくみを設けているものの、アセスメントシートの更新に関しては十分にできているとはいえないとの認識を持っている。今後は、現状の課題を検証し、どのような方法であれば更新できるか等、職員からの提案・アイデア等も募って、しくみの再構築と、実施の徹底が望まれる。
2	タイトル	各マニュアルの業務及び介助手順における留意事項に「根拠」を示す等により、さらなる内容の充実が期待される
	内容	「業務マニュアル」を整備している他、新人研修では基本理念、基本方針、行動規範、倫理綱領、就業規則等に加えて、通所介護事業における基本の考え方、「自宅での生活が主体」「主体性を大事に」「相手の立場に立って」「連携を心がけて」「常に進化します」について、具体的な場面等も取り入れながら説明している。11項目からなる具体的な行動指針も伝達し、標準化を目指している。一方で、現状のマニュアルは手順のみのものあるため、介助場面における留意事項を反映することで、「根拠」ある支援となるようさらなる内容の整備が期待される。
3	タイトル	
	内容	

《事業所名：つぼみ保育園 》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園の方針を示す、中期計画と連動した単年度計画がわかりやすく策定されています
	内容	令和4年から5年間の中期計画が策定され、園が取り組むべき課題や目ざす姿を年度ごとに示し、全職員の共通認識が得られています。園を取り巻く環境は子育て世帯のライフスタイルや価値観の変化によってさらに保育の充実が求められると分析し、子どもの「生きる力」を育む事、保護者の気持ちに寄り添う事、地域に根差した情報発信基地となる事を目ざしています。その取り組みは中期計画、単年度事業計画に連動し策定されており、運営理念、具体的な10の重点運営方針と6つの重点サービス計画、指標となる目標利用率をわかりやすく示しています。
2	タイトル	子どもたちの心身の成長を願い、健康体育、わらべうたなど特色ある保育を実践しています
	内容	保育方針や保育目標を念頭に置いて広い園庭で体を動かし、健康づくり（からだ、こころ）、豊かな仲間づくり、素足保育と薄着の習慣化を実践しています。自然が多い環境の中で戸外遊びを中心にした保育を行い、特色ある保育活動によって子どもたちの心身の成長をはぐくんでいます。外部専門講師による健康体育やわらべうたを取り入れ、伝承文化である和太鼓にも取り組んでいます。わらべうたの心地よい歌声や、歌詞からも豊かな情操がはぐくまれ、子どもたちの心と体がバランス良く成長しています。そして集団生活を通じて社会性を培っています。
3	タイトル	子どもたちの創造性あふれる製作物を園内に設置し、創作意欲をさらに高めています
	内容	園内には子どもたちが感じたことや想像したことを自由に表現した製作物が多く見られます。幼児クラスの誕生表は、自分の体を切紙で製作して顔を描き、子ども一人ひとりの創造力と個性が感じられる作品になっています。毎年卒園制作として取り組む額縁制作では、園のお便りなどを掲示する連絡ボードの額縁を作り玄関に設置したり、窓に設置した額縁には近隣との目隠しとなるよう子どもたちの絵を飾ったりするなど、園内で生かす工夫がなされています。子どもたちは日々これらの作品を目にすることで刺激を受け、製作活動に意欲的に取り組んでいます。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員が将来の目ざす姿を描ける、キャリアパス制度の早期策定を期待します
	内容	キャリアパスに関する認識が従来は不足していましたが、令和4年度からの中期計画に取り組み計画が記載されました。今後、目ざす職位や職務に到達するために必要な経験、資格、能力、道筋などを示すキャリアパスの全体像を示していく必要があります。現在は詳細を検討していますが、既に策定している職務等級定義や研修計画、実施している個人研修計画/振り返りシート、年間2回の個別面談については内容を精査してキャリアパス制度と連動させると良いでしょう。職員は将来の姿を描き意欲向上につながっていきます。今後の進捗に期待します。
2	タイトル	地域貢献できる子育て支援の発信基地として、ニーズに合った取り組みを期待します
	内容	昨年度はコロナ禍であったため実施状況が縮小され、子育て情報誌『こんにちは！つぼみ保育園です』を年9回発行しましたが、出前保育は2回、育児講座は1回の開催となりました。園内の委員会では地域貢献できる子育て支援の発信基地として、感染防止対策を講じながら地域の保育ニーズに合った今年度の取り組みを検討しています。保護者の悩みなどをリサーチし、保護者に寄り添った内容を企画し、園内だけでなく、ボランティアなども含めた地域資源の活用も視野に入れ、半日体験、小中高生育児体験、子育ての相談などの充実を目ざしています。
3	タイトル	働き方改革には、業務見直しとスキルアップの両面で取り組むと良いでしょう
	内容	園は働き方改革に取り組み、適正なワークライフバランスとなることを目ざしています。職員自己評価の自由意見の中には、勤務時間内に仕事が終わらずに残っている職員がいることが指摘されています。NO残業デーを設定し、有給休暇の取得促進、業務効率を上げていくためのICT化、行事の見直しなどに着手し、さまざまな改革に取り組んでいますが、成果についてはもう一歩の所だと認識しています。結果を出していくためにも、業務一つひとつの見直しと職員のスキルアップの両面において、新たな基準や指標を定め取り組んでいく事を期待します。

《事業所名：ふじみ保育園 》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園を取り巻く環境などを客観的に捉え、目ざす姿への取り組みを文章で示し共有しています
	内容	2021年度の事業計画などの策定のために、リーダー層が中心となり園を取り巻く環境などの外部要因と園の強みと弱みを内部要因として客観的に捉え、あるべき姿に向けて課題を分析整理していきました。この取り組みには全職員がかかわり、園が置かれている現状を客観的に理解し、取り組むべきことを文章で可視化して共有し、チームとしての一体感を醸成していきました。今後対応しなければならない課題として少子化問題や行政方針への対応、子ども家庭庁の創設もあります。変化に対応し園を運営するため、この取り組みを継続する方針です。
2	タイトル	全職員が意見を出し合い、クラスを越えて協力し改善する組織風土が作られています
	内容	園長は園運営の基本は職員間の風通しが良く、理念の実現を目ざし地域になくてはならない存在となる事と考え、全職員が意見を出し合い検討していく組織風土を構築し、課題などについて職員や利用者の意見を把握しています。さまざまな会議体や委員会を設置し、非常勤職員の発言の場を作るなど、全職員が積極的に保育に携われるようきめ細かく配慮し、一体感のある運営を行っています。組織的には、リーダー層が中核となり職員の気持ちや意見に耳を傾ける事や、改善に向けてクラスを越えて協力していく体制ができ、絆が強い職場となっています。
3	タイトル	子どもの興味関心、主体性、意欲などを尊重して体験重視の保育を実施しています
	内容	保育目標に「たくましく」を掲げ、子どもの心と体、主体性を育てる集団づくりを目ざして、家庭と園との「共育て」の中で子ども一人ひとりの主体性を大切にした保育を実践しています。戸外遊びや散歩による自然との触れ合いや、健康体育、表現活動などの体験重視の保育の充実に努めています。また、職員は子どものさまざまな興味、関心、発想に寄り添いながら遊びが発展するように支援しています。具体的には、全クラスが協力して段ボールで作成する「おばけ屋敷」の制作など、子どもの発想を生かし、主体性を大切にした保育が展開されています。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新人事評価制度と連動するキャリアパスについて、理解を深めると良いでしょう
	内容	法人が策定した中期計画には、やりがいを持って職務にあたるための環境整備の一環として、キャリアパス制度と、新人事評価制度が連動していく事が明記されています。現状、今年度の第三者評価の職員自己評価では、職員の長期的展望を示すキャリアパスについての理解がやや不足している傾向が出ています。職務分担表やキャリアアップ研修と連動した職員育成の資料はすでに策定されていますので、令和5年度に導入する昇給や昇格に反映する新人事評価制度とキャリアパス制度の関連を明確にし、職員の理解を改めて深めていく事を期待します。
2	タイトル	子どもが楽しめ、味覚体験ができる給食のメニューのさらなる充実を期待します
	内容	毎月開催する献立会議では、子どもの喫食状況や食材表などを分析して次月の献立に生かしたり、各クラスから人気メニューを聞いて献立に反映したりしています。また、食に対する興味、関心を引き出すため調理保育を実施し、4歳児はピザ、2～5歳児は月見だんご、全園児で焼き芋作りに取り組みました。献立会議では、さらに給食のメニューを充実させることを課題として認識しています。郷土料理や世界の料理、旬の食材を使った料理など、子どもが楽しめ、さまざまな味覚体験ができるようメニューの充実に取り組んでいます。
3	タイトル	地域子育て支援のニーズを的確に把握し、今後の活動が充実することを期待します
	内容	地域子育て支援を事業計画の重点項目として掲げ、さまざまな取り組みを目ざしています。そのため地域の子育て家庭は何を必要としているのか、どんなことに困っているのかなど、地域のニーズを把握していくために出前保育の紙芝居への参加者や保育所体験者にアンケートを実施しています。また、法人が展開している「むらやまえん生活相談所」と連携しニーズを把握するため、子育て情報誌「ふじみのひろば」にて定期的に生活相談所の周知を行っています。把握したニーズを今後の子育て支援の活動に反映し、支援策がさらに充実していく事を期待します。

《事業所名：ほんちょう保育園 》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	透明性のある開かれた園を目ざし、保育に取り組む姿を発信し続けています
	内容	園長は子どもを真ん中に保護者と共に「子どもにとって最善の利益」の実現を基本にしています。そのため透明性のある開かれた園を目ざし、さまざまな会議体を通じて園の方針を全職員にわかりやすく具体的に伝え、計画策定などでは、職員一人ひとりの役割や立場を尊重し全員で作り上げています。保護者には保育内容を知っていただくことが「共育て」の基本となると考え、「園だより」や「クラスだより」などを充実し、行事はふだんの姿を見せています。地域の子育て親子向けに「ほほえみ通信」を発行し、園が取り組んでいる姿を発信し続けています。
2	タイトル	地域とのかかわりを大切にして、子どもたちに多様な体験を提供しています
	内容	近隣の公園や消防署、児童館では熱帯魚や電車の模型を見せてもらっています。近隣の畑では芋掘り体験を行っています。併設している高齢者施設の高齢者との交流は、今年度も従来のようには行えず、ビデオメッセージを届けたり、窓越しで5歳児のたいこ演奏などを見てもらったりするなど、工夫をしながら交流をしています。卒園式には、5歳児が胸につける花のブローチを高齢者施設の方が手作りして、毎年プレゼントしてくれます。地域子育て支援事業の出前保育時には、5歳児が折り紙で作ったメダルを参加者にプレゼントすることを恒例にしています。
3	タイトル	委員会やさまざまな会議体が組織的に機能し、情報共有のもと園運営を行っています
	内容	園内に4つの委員会を設置し、毎月定期的なミーティングで中期や短期の課題を把握し対策を検討しています。委員会が取り組む内容はリスクマネジメント、安全衛生、防火防災管理、地域連携があり、全職員がさまざまな会議体や係打ち合せにかかわり、委員会からの提案内容を確認し、各取り組みの実施内容や実施時期などについて意見交換し主体的に決めていきます。委員会では月1回進捗状況を確認し、見直しが必要な場合は職員会議で検討し承認していきます。通期の職員反省会議で進捗状況を説明し、状況共有がされ組織的な活動となっています。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	キャリアパスの目的や仕組みがより浸透することで、働きがいを感じられるようになるでしょう
	内容	職員が自身の将来について長期的展望を持ち、前向きに日々の保育に取り組むため、キャリアパス制度への理解をより深めていく必要性を感じます。経験年数と職務を基本に「役割と責任」を設定し目ざす姿を具体的に示し、「個人研修計画／振り返りシート」、「自己チェツク票」によって半年ごとに育成の方向を共有し、園内外の必要な研修受講を奨励するなど既に実施されています。今後、実施されている育成の取り組みに新たに人事評価制度を加え、働きがいを感じられるようキャリアパスの目的や仕組みについてより理解を図る取り組みに期待します。
2	タイトル	事業継続計画（BCP）が機能するよう、初動段階の対応を明確にすることを期待します
	内容	事業継続計画（BCP）はリスク委員会が基本案を策定し、職員会議で検討し最終的な計画を完成させています。基本方針、推進体制、発動基準、指揮権代理順位、初動対応のチェックリスト、緊急連絡先リストなどが作成されており、毎年見直しも行われています。BCP発動時は通信や交通手段が使えない状況が想定されますので、初動段階の参集者とその役割を、初動対応のチェックリストを基に誰が何を担当するか定め、その体制を資料掲示などで周知し、常に職員の意識を保っておくと良いでしょう。混乱状態でも統制された活動となる事を期待します。
3	タイトル	画像を保管する記憶媒体やICT機器の安全対策について再点検すると良いでしょう
	内容	園業務の効率化や保護者との連絡手段、保育内容を画像を使いわかりやすく伝えるためにICT機器の活用が進んでいます。重要情報の漏洩に対してはクラウド上で管理し、IDとパスワードによりアクセス制限を行いセキュリティ対策を行っています。保護者とは画像などの使用についての同意書を結んだうえで、さまざまな資料作成時に画像を使用し編集しています。写真などの画像を保管するSDカードなどの記憶媒体についても一定のルールに基づき使用されていますが、デジタル情報は増加する一方ですので安全対策を再点検していくと良いでしょう。

《事業所名：ひよし保育園 》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園長は透明性があり開かれた園となる運営をし、子どもの最善の利益に資するよう子どもや保護者に寄り添う保育を大切にしています
	内容	チームとして保育に取り組む事を基本とし、保護者や職員にとって透明性があり開かれた園を目ざしています。そのため情報の発信や共有には十分な配慮をし、それらの対応が信頼関係となり、園の雰囲気が良い、安心できる、相談がしやすいなどの保護者の声となり、利用者調査結果に表れています。園運営や保育の中で生じる課題には、子どもの最善の利益を考慮しながら全職員で話し合い、協力して迅速に対応しています。子どもや保護者に寄り添い、園長が全体的な責任を持ち、主任、副主任、リーダー層が役割りを認識した組織的な活動となっています。
2	タイトル	戸外遊びや絵本の読み聞かせを中心に、健康体育、わらべうたなどを保育に取り入れ健康な体づくりと豊かな情操を培っています
	内容	健康な体づくりを目ざし、年間を通して裸足保育や健康体育を取り入れています。子どもの活動の中でも戸外活動は、自然を感じる事や地域との交流などにつながるため、園庭遊びや、ほぼ毎日散歩に出かけて遊ぶことを大切にしています。絵本の読み聞かせやわらべうた、リズム、造形などは0歳児から楽しむ事を大事にして取り組み、造形では子どもの感触や感覚の発達にもなるため、絵の具遊びも行っています。子どもの「やりたい」「やってみたら楽しいね」を大事にしながら、おとなとともに楽しみながら子どもたちの豊かな情操を培っています。
3	タイトル	3～5歳児は3人組の異年齢グループを作り活動する日を設け、遊びの伝承などを通して思いやりの心が育つように配慮しています
	内容	3～5歳児クラスでは3、4、5歳児の3人組の異年齢グループを作っています。3人でいっしょに活動する日を設け、さまざまな活動をしています。散歩に出かけて集団遊びを楽しむ事や、卒園児一人ひとりにプレゼントする製作物を協力しながら作るなど、異年齢児グループでの生活、遊びの伝承の活動を通して、子ども同士思いやりの心が育つよう配慮しています。5歳児は乳児クラスに生活のお世話に行ったり、お祭り前には盆踊りを踊りに行くなど、3～5歳児だけでなく異年齢児とのかかわりを大切にしながら保育を進めています。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域交流や子育て支援活動については、対策を講じて可能な事から実施していく事を期待します
	内容	地域交流や子育て支援活動については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染防止の観点から思うような展開ができない状況となっています。従来は、0～2歳児向けに半日保育体験として未就園児の親子が来園し同年齢の子どものクラスで過ごし、体験する企画でしたが、前年度より園庭開放に切り換え、今年度は園ホームページに日程を周知し4～6月に実施できました。しかし、近隣の家庭的保育室との交流を計画していましたが中止する決断をしています。ICT機器の活用や感染防止策などを講じて、可能な事から実施していく事を期待します。
2	タイトル	組織的な保育活動を向上させていくため、非常勤職員との情報共有の工夫が望まれます
	内容	職員会議では重要課題の検討や情報伝達、内部研修などを月に3回実施し、園運営の軸としています。多くの職員が参加できるように午睡の時間帯に開催し、職員として理解し共有すべき事などを明確にしています。しかし、非常勤職員は勤務時間などの関係から会議や研修に出席できないことがあり、欠席した場合は会議録だけではなく口頭でも伝えていきますが、理念などの理解を深めていく取り組みや研修の共有化は難しいと感じています。組織的な活動の質を向上させていくため、リモートでの研修など非常勤職員との情報共有の工夫が望まれます。
3	タイトル	魅力ある職場とするためICT化を推進し、働き方改革にもつながる取り組みを期待します
	内容	今年度の事業計画の重点運営方針として、前年度に引き続き魅力ある職場とするためICT化を推進していく事を掲げています。保護者との連絡では、園を休む場合に連絡用アプリを使用することや、玄関のタブレットで登降園時間を記録するなどを行い、今年度は園だよりなどの配信を始めました。未導入のクラスだよりやおたより帳、お知らせの配信、保護者面談、説明会のオンライン化を期待する声も出ています。ICT化は業務効率化や職員の育成面での活用など、働き方改革にもつながります。導入時の苦労はありますが積極的な取り組みを期待します。

《事業所名：福祉事業センター》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	一人ひとりの仕事ぶりを正しく評価し、それを利用者毎に伝えることで、仕事への励みとなるよう取り組んでいる
	内容	作業を多面的な尺度で客観的に評価しフィードバックすることで、利用者の就労に向けてのやる気を引き出し、同時に就労に結びつけるための職種選定のアセスメントにもつなげている。作業評価は、作業能力評価と作業態度評価に分かれ、それぞれに評価項目が設定されている。こうした取り組みは利用者に自分が正当に評価されているという安心感と仕事に向けての積極性を醸成する。利用者調査結果をみても、利用者の工賃や作業についての関心は高く、特に、工賃についてのしくみについてはわかりやすいとの回答が多くなっている。
2	タイトル	コロナ禍の厳しい事業環境にも関わらず、的確な事業運営により、各事業とも好結果を残すことができている
	内容	事業所は、就労支援をはじめ、作業の提供や個別訓練を実施し、高工賃の還元、適性に合った職場探しや求職支援を目標として活動している。また、健全な事業継続に向けて、取引先企業との連携強化を図る等、取り組みをすすめている。直近の実績として、令和3年度はコロナ禍の厳しい事業環境の中、高い実績を維持し、就労継続支援B型では、令和2年度の平均工賃を大きく上回る好結果を残すことができた。今年度も、利用者の勤労意欲に働きかけるとともに、取引先企業との関係を深める等、全職員が力を合わせ、目標達成を目指して、取り組んでいる。
3	タイトル	利用者が将来就く仕事の職種や現場を想定し、それに合わせたプログラムで訓練を行っている
	内容	利用者が将来就く職業を想定して、一人ひとりの作業特性に合わせた行動科学的なアプローチで作業訓練を実施している。例えば、就労移行では、これまで事業所の利用者が就職した職種と労働現場の実績を根拠に、その職場に合わせた訓練プログラムを用意している。倉庫内でのピッキング、オフィスでの書類のファイリング・ラベルづくり、生産工場での計量作業などである。就労継続支援B型についても、毎日の観察から利用者毎に作業能力を見極め、適した作業内容となるよう配慮する等、すぐ就職しても困らないような実践トレーニングで指導している。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	個別支援計画作成および運用のプロセスを可視化し、利用案内等に掲載されることを期待したい
	内容	個別支援計画は、利用者の自立生活の支援とさまざまな課題の解決を目的とし、サービス管理責任者が利用者と家族の意向をふまえて作成するとともに、サービス検討会議で共有・検討し定期的に見直している。サービス管理責任者が個々の利用者のプロセスを管理し、利用者も定期的な面談により、目標等を理解している。計画の実現に向けては、利用者自身の理解が必要となるため、策定手順や運用、利用にあたってのルールや写真つきの作業内容、工賃のしくみ等を、「利用案内」等に掲載し、プロセスを可視化することで、理解を深めることを期待したい。
2	タイトル	新たに策定された法人の「中期計画」に合わせた事業計画に基づき、中・長期の視点をもった事業運営を推進していくことが望まれる
	内容	事業所は、毎年、年度事業計画を策定しており、「事業計画会議」に職員及び利用者が協議に参加するプロセスを経て、確定としている。毎年度、12月頃から着手し、期の中間段階で当年度の方針・目標・計画等についての進捗及び達成状況を確認するとともに、利用者ニーズや職員の意向等も検証しているため、実行性と納得性の高い事業計画となっている。また、今年度、法人の「中期計画」が策定され、計画に基づく遂行を目指しており、今後は「中期計画」に沿った事業計画を策定し、中・長期の視点をもった事業運営を推進していくことが望まれる。
3	タイトル	混雑時のエレベーターの運用ルールを設ける等、利用者がよりいっそう働きやすい環境作りに取り組まれたい
	内容	元々は入所施設であったため、建物の構造が現在の使用目的に合わず、利用者にやや不便を感じさせる場面もある。そのため、事業所は、利用者の声を聞き、利便性を考慮し、例えば、継続Bの女性ロッカーは3階にあるが、4階の利用者が小物をおくロッカーを4階に設置する等、配慮している。一方、利用者調査結果では、エレベーター使用時に隣接施設と共同で使用するため、時間により、混雑し待ち時間が発生しているという声が、複数挙がっている。エレベーターの運用ルールを設ける等、利用者がよりいっそう働きやすい環境作りに取り組まれたい。